

第 26 回（平成 31 年度 第 1 回）黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日 時 平成 31 年 4 月 25 日（木）14：00～
- 場 所 黒部市役所 2 階 201～203 会議室
- 出席者 協議会委員 18 名

委員等名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成 計画を作成しようと する市町村	黒部市長	大野 久芳	本人出席	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	中田 邦彦	企画部副部長 川村 隆志	
		黒部市タクシー協会長	神谷 尚機	本人出席	
		あいの風とやま鉄道株式会社総務企画部長	助野 吉昭	担当課長 福田 聡浩	
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所長 黒部市長《再掲》	松井 明澄	所長代理 佐伯 滋	
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	高尾 且英	本人出席	
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議会	能登 政雄	欠席	
		黒部市民生委員児童委員協議会長	田村 豊嗣	本人出席	
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会長	村上 勝悦	本人出席	
		くろべ女性団体連絡協議会長	新村 恵子	本人出席	
		公募委員	中谷 靖子	欠席	
	政策支援 アドバイザー	東京大学大学院工学系研究科教授	原田 昇	本人出席	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	井藤 太亮	本人出席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	織田 幸浩	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	長谷川 僚一	本人出席	
		富山県観光・交通・地域振興局 総合交通政策室次長	鈴木 邦夫	主幹 藤田 実	
		地域交通・新幹線政策課長	川端 康夫	本人出席	座長
黒部商工会議所会頭		川端 康夫	事務局長 坂井英次		
一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局代表理事		川端 康夫	本人出席		
Y K K 株式会社 執行役員 黒部事業所長	浅野 慎一	本人出席			
富山県交通運輸産業労働組合協議会議長	石橋 剛	本人出席			
宇奈月商工振興会	羽柴 進一	欠席			

- 事務局：黒部市都市建設部都市政策課：島津部長、島山理事、廣木課長、神保班長、櫻田班長補佐、水島主任、大坂主事

会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ（会長 大野黒部市長）
- 3 経過報告
- 4 議案
 - 議案第1号 平成30年度収支決算について（監査報告）
 - 議案第2号 平成31年度収支予算（案）について
- 5 協議事項
 - 協議第1号 平成31年度交通まちづくり創生事業について
 - 協議第2号 第2次黒部市地域交通網形成計画の策定について
- 6 報告事項
 - 報告第1号 黒部市地域公共交通網形成計画の進捗状況について
 - 報告第2号 高齢者運転免許自主返納支援制度の拡充について
 - 報告第3号 ゴールデンウィーク中のバス運行について
 - 報告第4号 市内路線バスのダイヤ改正等について
- 7 その他
- 8 閉会

開会

- 定刻通り開会し、委員の変更について連絡した後、事務局について紹介を行った。

挨拶（大野市長）

- 市長より挨拶を行った。

今年は桜のお花見が、例年より長く楽しむことができましたが、いよいよ新緑の候の季節を迎える今日この頃でございます。本日は、第26回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催いたしましたところ、委員各位におかれましては、ご多用の中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃より本市の公共交通の整備と運営にご理解・ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

まず、最近の話題として、先日4月20日（土）と21日（日）の両日にわたり、本市の宮野運動公園にて、人気女性アイドルグループ「ももいろクローバーZ」のコンサート「ももクロ 春の一大事2019イン黒部市」が盛大に開催され、両日合わせて、約3万人の方が本市を訪れました。その経済効果については、まだ詳細は把握していませんが、宿泊や交通機関の利用については、顕著に効果が出ていると考えられます。路線バスにおきましては、新幹線市街地線が満車状態であったと聞いております。またタクシーについても、たくさん利用があったと聞いております。合わせて、先般他の会合にて、黒部峡谷鉄道の方から、昨年同時期と対比して141%強の来客者増があったとして、大変喜んでおられました。

さて、本協議会におきましては、昨年8月から休止を余儀なくされました「ちょいのり黒部」をこの4月から再開いたしました。再開にあたりましては、休止前に発生した問題を洗い出し、その対応策を検討いたしました。特に100円を投入すれば誰でも利用できるという利便さが逆に問題となりましたことから、今回は利用者にも一定の責任を持っていただくこ

とし、事前登録により鍵の貸与を行う制度に改善しました。利用しようとする方にとっては、登録手続きが負担と感じる面もあり、実際の利用につながるかという、不安もありましたが、幸いにも現在の登録者は 55 名で、今後も増加する傾向にあります。また、北陸新幹線につきましては、開業 5 年目を迎え、本市の黒部宇奈月温泉駅についても、新川地域の玄関口として定着し、利用者数も堅調に推移しております。さらに今年は改元に伴う 10 連休に加え、暖冬の影響で黒部峡谷鉄道が 4 月 29 日（月）に全線開通となることから、連休中の黒部宇奈月温泉駅は例年以上の賑わいになるのではないかと考えております。一方、新幹線開業に合わせて整備を進めてまいりました本市のバス路線網につきましては、引き続き厳しい状況が続いているところであります。しかしながら、観光やビジネスで本市を訪れる方、他の地域から移住・定住し、生活を始める方、そして高齢者を含む既存の住民の皆様が快適に過ごしていただくためには、公共交通の果たす役割はたいへん大きいと考えております。今後、本市が選ばれる地方都市となるためには、公共交通の維持は重要ですが、一方では採算も考慮した上で、持続可能な運営を考えていくことも必要であり、協議会の皆さんや地域の皆さんのご意見もお聞きしながら、必要なバス交通網の再編・見直しを進めてまいりたいと考えております。また、鉄道分野におきましては、来年度の明峰中学校開校に伴い、宇奈月地区の生徒が電車通学となることから、地鉄荻生駅の安全確保と利便性の向上のため、同駅の再整備工事が予定されています。本市といたしても、工事を発注されました富山地方鉄道株式会社に対し、今年度中の完成に向け、できうる限りの協力を行っていきたいと考えております。

本日は、収支決算及び予算のほか、交通まちづくり創生事業、また今後の公共交通網の方向性を定める第 2 次地域公共交通網形成計画の策定について、協議させていただきます。活発かつ有意義な会議となりますよう、皆様の忌憚のないご意見をお願い申し上げます。本日はよろしくお願いたします。

経過報告

- 事務局より、資料に基づき経過報告を行った。
- 進行：廣木課長
質問なし

議案

（1）平成 30 年度収支決算について

- 事務局より資料 1 に基づき、平成 30 年度収支決算について説明を行った。
- 川端委員
皆さんの意見を聞く前に、収支決算については監査を受けているので、監事である田村委員より監査報告をお願いしたいと思う。
- 田村委員
平成 30 年度事業報告及び収支決算について、諸帳簿領収書等を確認したところ、いずれも適正にして相違ないことを確認した。以上である。

《全員拍手にて承認》

（2）平成 31 年度収支予算（案）について

●事務局より資料 2 に基づき、平成 31 年度収支予算（案）について説明を行った。

○浅野委員

交通まちづくり創生事業は、平成 30 年度歳出にて次年度繰越金として 960 万円を計上し、平成 31 年度の同事業の予算額はこの繰越金を含め 2,260 万円としているが、この資料だけでは、何が前年度未達成で予算を繰り越したのか見えてこない。

○事務局

平成 30 年度中に大阪屋ショップ駐車場内にモビリティハブ及びバス停を整備している。その費用が繰越金となっている。平成 30 年度より工事に取り掛かっていたが、大阪屋ショップ並びに地権者との協議に時間を要し、完成が今年度 4 月に食い込んだため、繰越の手続きを取らせてもらった。お金の流れとしては年度をまたいでいるが、同施設は 4 月 10 日付で完成検査を終了しており、同月 15 日から供用を開始し、事業としては完了している。

○浅野委員

内容は理解した。そうすると、繰越金を引いた金額が今年度の予算額と考えれば良いか。

○事務局

そうである。

《全員拍手にて承認》

協議事項

平成 31 年度交通まちづくり創生事業について

●事務局より資料 3 に基づき、平成 31 年度交通まちづくり創生事業について説明を行った。

○井藤委員

次世代交通システムについて、運賃は 1 人で乗っても、相乗りで乗っても 1 回あたり 500 円ということではよろしいか。

○事務局

そうである。1 人 1 乗車 500 円としている。

○井藤委員

資料 3-2 の 1 ページ、参加登録者へのアンケートにて、タクシーより割安だったから利用したと多くの方が回答しているが、相乗り型タクシーを利用するというインセンティブと、相乗り型タクシーで相乗りをするというインセンティブは、それぞれ別に考えた方が良いと思う。例えば、知人を誘って相乗りすれば 1 人当たり 400 円になるというような、相乗り行為へのインセンティブも考えていければ良いのではないか。

○長谷川委員

事例として、新潟県三条市でデマンド交通が導入されている。三条市の場合、1人乗車だと距離に応じて料金が500～3000円となっているが、一方で複数乗車だと距離制ではなくエリア制を採っているようで、複数乗車の場合400円又は800円となっている。ただ、この仕組みを導入し、自治体、運行事業者や利用者がどういった評価をしているかは分からない。事実としてこういった複数乗車を誘発するような、運賃設定をしている自治体もある。

○川端委員

相乗りといった文化は、なかなか理解していただけないところもあるので、先ほどのような事例を参考にして検討して頂ければと思う。他にご意見がないようなので、原田先生よりこの事業についてのアドバイスがあればお願いしたい。

○原田委員

協議事項2号の意見も含めて述べると、持続可能な公共交通の実現を考えると、収支率や採算性は考えざるを得ない。コミュニティバスのような形で空白地域の足を確保するとなると、市民からの要望が強く運行を始める地域もあれば、自治体の方でネットワークとして必要だと考え運行を始める地域もある。いずれの場合にしても黒字で運行することは難しく赤字運行となってしまふ。コミュニティバスを運行している所では、赤字は累積しているが、止めることができない所も多くある。こういった状況の中で、コミュニティバスの運行計画を立てる時、自治体が、赤字になることを見込んだうえで赤字金額の補填の上限を設定し、上限を超えた場合は、コミュニティバスの廃止や相乗り型タクシーへの変更を検討したりすることを、当初からコミュニティバスの導入ガイドラインで定める自治体も出てきている。定めた自治体では、その後もPDCAで改善をする中で、赤字が増えて運行の継続ができない状況にならないよう、地元住民も協力して利用促進をする必要があることもあり、取り組みが進められている。黒部市では、非常にしっかりした計画で進めてきているが、今回見直しの時期ということもあり、今回の計画作成時には赤字運行について、どう対応していくか議論する必要があると思っている。

次に次世代型交通システムについては、通常のタクシーより安い料金で乗れるから相乗りタクシーを使い、その収支率が36パーセントだったということが、素直な結果であると思う。その後のアンケート結果を見ると、利用者は相乗りしたくないと言っている訳ではないし、6割程度の利用者が将来的に相乗り型タクシーを利用したいと答えているので、相乗りで乗客を拾える可能性もあるのではないか。相乗りというのは、先ほど川端委員が言われたように非常に難しい。豊田市で行っている「たすけあいカー」とか、それを全国版で展開しようとしている「たすけあいタクシー」等の事例があるが、乗合ということでやはり思うようにいっていない面があるようだ。しかし黒部市の場合は、「相乗りをしたくない」と答えた人がゼロで、もし本当に相乗りしても良いと考えているのであれば、相乗りタクシーの実現可能性は非常に高いのではないか。

今回の実証実験は、お出かけ時に相乗り型タクシーを利用してもらったので、住民同士で声を掛け合い、相乗りで出かけることは中々難しいことだったと思う。しかし、例

えぼどこかでイベントがあつて、そのイベントの帰りに近所の住民同士で相乗りして帰ることはよくあるし、イベントと上手く組み合わせることで、相乗りして帰宅する可能性はより高まるのではないかと。工夫をすれば相乗りの方法は様々にあると考えている。

公共交通の担当になると、周りから励まされることがよくあるそうだが、暮らしを支えるために公共交通の役割は様々にあると思っただきたい。赤字ばかりで気分が暗くなることもあるかもしれないが、独立採算制で公共交通をしなければならないと考えているのは世界中でも日本だけである。その日本も最近では考え方が変わってきていて、社会的に必要なものは、赤字でも認めようといった風潮になりつつある。どこに基準を置くかによって、公共交通の役割は全く違うものになり、その一番極端な例は公共交通を無料にすることである。公共交通の収支だけで考えると赤字だが、街全体の収支で考えたらプラスであり、どこに基準を置くかで公共交通の役割は変わってくる。黒部市でもぜひ前向きに検討していただきたい。

○浅野委員

冒頭に大野市長の方から、ちょいのりの登録数が 55 人という話があつたが、現在はその 55 人の方のみが利用できる状態なのか。

○事務局

その通りである。

○浅野委員

そうだとすると 55 人の方以外は利用ができない状態ではないか。先日から運転再開したということで、これからだと思ふが、登録者をどうやって増やすか考える必要がある。登録の仕組みを簡略化する等、何か手を打たなければ、登録者が増えないのではないかと危惧している。ぜひご検討いただきたい。あと、今のところ自転車の台数は 25 台と記憶しているが、これでは設置台数がかなり少ないように思える。ぜひ自転車の台数を増やしていただきたい。

○事務局

今現在、ちょいのりくろべの台数は、平成 30 年度に 5 台増やしたので 30 台となっている。登録者が 55 人であることについては、今のところの感触として少しずつ増えており、右肩上がりの状態で 55 名まで来ている。ここで頭打ちであれば 55 人しか使えない状況になるので、もう少し様子を見て、次の手を検討していきたい。

○浅野委員

次回の協議時にも状況をまた知らせてほしい。

○事務局

ぜひ委員の皆様にも登録をお願いしたい。周囲の方々へも呼び掛けていただければありがたい。また市の方でも、機会を見て契約を増やしていきたいと考えている。

○川端委員

公共交通を使用する方が、自転車を利用するのが一番良いスタイルである。そういった方々に周知するのも、1つの方法であると思う。

《全員拍手にて承認》

第2次黒部市地域交通網形成計画の策定について

●事務局より資料4に基づき、第2次黒部市地域交通網形成計画の策定について説明を行った。

○長谷川委員

黒部市においては、計画策定に400万円要することから、国の補助の要望を上げていただいている。資料2にて国補助金100万円とあるが、これは内定額であり、本申請後に正式な契約となる。交付決定後、第2次網形成計画を作ることになるが、事務局はもちろんのこと、計画策定を受託する事業者においても、網形成計画策定にあたっての指針となる活性化再生法の基本方針を熟読してから作成に取り掛かってほしいと思う。

もう一点、国の補助を活用する時、補助事業については協議会が1次評価をすることになっており、1次評価の報告時期は1月末である。黒部市の場合、前年度は書面協議だったが、一方で、協議会はなるべく対面による協議が好ましいとされているので、県内の他の自治体では今年の1月下旬に対面で協議会を開催したところもある。年末年始を挟む、非常に難しい時期だが、黒部市については、今年度2事業の補助を受けているので、1次評価にあたってはぜひ対面での協議をお願いしたい。

○川端委員

事務局はよろしく対応して頂きたい。

○石橋委員

資料の中に、担い手の確保とあり、今後検討が進むと思われるが、具体的にはどのような計画を考えているのか。もし今の段階でお考えがあれば教えていただきたい。

○事務局

担い手不足というのは、バス運転手が全国的に不足しているといった社会情勢を見据えた中で用いたものである。社会情勢を踏まえた形で、これから計画の作成を進める中で、課題になったり、整えていく必要があったりするため、記載をさせて頂いている。法定協議会が、運転手を確保するための事業を直接行えるかと言えば難しい部分がある。今現在の運転手不足への対応をするのであれば、運行事業者等へのヒアリングや協議をもとに進めることになるだろう。

《全員拍手にて承認》

報告事項

●事務局より資料5～8に基づき、報告事項について説明を行った。

●福田委員より、あいの風とやま鉄道による運転免許証返納者割引乗車券について説明を行った。

○川端委員

報告第4号について、各バス路線のダイヤ表はどのような形で配布しているのか。

○事務局

各路線に係る地区に市広報に同封する形で配布済みであり、公民館、市役所にもダイヤ表を置いている。

その他

●その他意見等なし。

閉会（大野市長）

●市長より挨拶を行った。

本日は、長時間にわたり、ご協議をいただき、ありがとうございました。川端座長さんには、円滑な議事運営をいただき、感謝申し上げます。

先ほどの報告事項でも説明がありましたが、バス路線の利用者数は、微増ではあるものの、依然、路線ごとについては厳しい状況が続いております。このバス路線網を持続可能な運行としていくためには、再編や見直しも含め「第2次黒部市公共交通網形成計画」策定作業の中で協議を進めなければいけないと考えております。

高齢者運転免許自主返納支援事業につきましては、期間限定のバス無料化の取組からもう少し前に進めることができないかと考え、限られた予算の中で、担当と協議を進め無料期間を無期限とすることを決断いたしました。私の狙いは、免許を自主返納して家に籠りがちになるご年配の方々が、このことでもう少し街へ出て行けるのではないかと考えています。併せて街に出ることで交流の機会も増え、消費活動にも繋がり、こういった活動が認知症予防にもなるのではないかという思いであります。このような取り組みは、県内では黒部市だけで非常に注目されており、他自治体も実施するか検討に入っているようです。しかし、まだスタートしたばかりの事業ですので、周知に努め、また、ご年配の方々が免許を返納しても街中を動けるよう政策に取り組んで参りたいと思います。

以上を踏まえて、本日お集まりの皆さまには、本協議会の委員として、また各々ご出身の立場から、本市公共交通の維持・発展に、引き続きご指導・ご協力賜りますようお願い申し上げます。閉会にあたってのご挨拶に代えさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

以 上